

講義名	メディア論		
科目区分	学部フリーゾーン		
担当教員	桑原 桃音		
開講期・曜日・時限	後期 木曜日 1時限		
	2017年度 人間社会学部 人間健康学科 / 2017年度 人間社会学部 観光学科 / 2017年度 人間社会学部 人間社会学科 / 2017年度 経済学部 経済情報学科 / 2017年度 経済学部 経済学科 / 2017年度 商学部 マーケティング学科 / 2017年度 商学部 経営学科 / 2016年度 人間社会学部 人間健康学科 / 2016年度 人間社会学部 観光学科 / 2016年度 人間社会学部 人間社会学科 / 2016年度 経済学部 経済情報学科 / 2016年度 経済学部 経済学科 /		
履修開始年次	3年生	単位数	2
		講義コード	41069

主題と概要

主題：メディアの歴史、メディアの現状、メディアの文化についての概要を知る
 概要：
 ・メディア論とは何かを知り、メディア産業の構造とその変化の輪郭をつかむ。19世紀後半以降のメディアの歴史から、現代のメディア環境の革新と多様化についてたどることで、メディア論の基礎的な知識、視点、理論を知る。メディアがいかに社会を切り取るのかを検討し、考察するために、ジャーナリズムの実践とメディアの表象についてみていく。さらに、メディアを資料として社会意識や社会問題を検討し、考察する。
 ・この授業では、授業の理解のためにレジュメだけでなく、補足資料、パワーポイント、ワークシートを用いて講義を行う。理解を深めるために、現代メディアの分析、新聞記事の要約と意見の提示、映像資料の視聴、グループワークを行う。

到達目標

・メディア論の基礎的な考え方、方法、理論について理解し、説明することができる。
 ・メディアによる社会変化の可能性について理解し、説明することができる。
 ・上記の能力を用いて、メディアによって社会現象をとらえる重要性を知り、同時に、メディアによってつくられる自明性を問いなおすことができ、その視点でメディアを資料として、問題を検討し、考察することができる。

提出課題

・授業時にワークシート、Respon等を課す
 ・不定期に課題、小テスト、グループワークで作成する成果物などを課す
 ・第8回に中間レポートを課す（受講生の様子を見て中間テストに切り替える場合もある）
 ・最終レポートの内容については講義時に詳細を説明する。ポータルの説明内容だけでは書けないので注意すること。

評価の基準

・平常点50%（出席点10%、講義内のペーパーや課題の提出40%）
 ・レポート50%（中間レポートor中間テスト10%、最終レポート40%）

履修にあたっての注意・助言他

・授業内でのディスカッション、ワークシートへの記入、Responの入力を積極的に行うことが評価につながる。
 ・欠席、遅刻が評価にひびくので注意すること。
 ・授業内で発言を求められること、ディスカッションをすることがある。積極的な授業態度が望まれる。
 ・他の学生が学習する機会、権利を侵害する行為（私語・携帯電話やスマホの使用・授業途中の入退出など）をする者はその日は欠席扱いとし、退出を指示することがある。

教科書

・使用しない。

プリント資料及び参考文献

・講義時に資料とレジュメを配布する。
 ・参考文献は適宜指示する。映像資料やインターネット上のサイトなども利用する。

授業計画

1. オリエンテーション&メディア論とは（1）
2. メディア論とは（2）
3. メディア社会の構造
4. メディア史（1）
5. メディア史（2）
6. ジャーナリズム論
7. 新聞記事から社会を読み解く（1）
8. 中間レポート（もしくは中間テスト）
9. 新聞記事から社会を読み解く（2）
10. 現代メディア（1）
11. 現代メディア（2）
12. メディアの表象文化
13. メディアから社会意識を読み解く
14. メディアを分析する：最終レポートについて
15. まとめ

予習・復習

予習：指定された参考文献、雑誌・新聞記事などの資料に目を通してくる。毎回ではないが、授業内で指定された資料を収集したり、その資料について要約したりしてくることを予習として課す場合もある。

復習：授業時に配布した資料、ノートを見直すこと。さらに、授業で理解した知識を踏まえて、その内容について考察したことを文章化してノートに200字程度書くこと。

備考